

Amir Tsarfati 氏ジャパンツアー in 熊本 2017年7月9日公開 ゴグとマゴグについて

<https://youtu.be/MIG5ykySbCs>

今日の午後は、「ゴグとマゴグ」についてお話します。ゴグというのは、地域の名前ではなく、特定の人の名前だということを理解しなければなりません。マゴグというのが地域の名前です。創世記 10 章 1~2 節、ここに、ノアの息子たちの系図が書かれています。この二つの節の中に、聖書預言を学んでいる方にはおなじみの名前が出て来ます。理解しておかなければならないのは、この時は、地球上に再び人口が増え始めた時です。大洪水の時に、全ての生き物が絶滅した後です。

- 1 これはノアの息子、セム、ハム、ヤペテの歴史である。大洪水の後に、彼らに子どもが生まれた。
- 2 ヤペテの子孫はゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メシェク、ティラス。
- 3 ゴメルの子孫はアシュケナズ、リファテ、トガルマ。

(創世記 10:1~3)

さて、このように、地球に再び人口が増え始めた時、その地域は人の名前にちなんで名付けられました。こんにち、聖書預言の中で、預言者たちが呼んでいる地域の名前というのは、もともとは人の名前にちなんで名付けられたものです。面白いことに、マゴグというのは、その地域の一番北にあります。カスピ海の上(北)に位置します。それは、こんにちの地域のどこだか分かりますか？

——(会場) ロシアです。

その通りです。これで、名前の紀元が分かりました。それと、その名前がどこに位置するかということも分かりましたね。時によって、地域の名前というのは、そこを象徴する霊的な地として名前が用いられることがあります。ですから、必ずしも地域名として用いられるとは限りません。例えば、2011年の津波は、こちらのメディアでは「ハルマゲドン」と言われました。日本で「ハルマゲドン」とは津波ではないでしょう。しかし人々は、名前に隠された霊的な象徴をするとき用いるのです。時には、特定のイベントを表す説明の名前として使われることもあります。そして、また違う時期に表されることもあります。もう一つは、全然違う出来事、全然違う場所でありながら、同じような性質を持つ、ということもあります。なにか、とても破壊的で、この世の終わりのようなもの、そういうことが起こると、人々はすぐに「ハルマゲドンだ」と呼びたがります。「ハルマゲドン」という映画がありましたし、(DVD ジャケットを見せながら)これ、ハルマゲドンですね。映画は、宇宙からの侵略という内容でした。考え方としては、この世の終わりです。だから彼らは、ハルマゲドンと名付けました。もう一つは「バビロンの謎」と呼ばれるもの。「バビロンの謎」というのは、昔のバビロンではありません。それなら、「バビロンの謎」とは呼ばないのです。しかし、バビロンの霊は神に反逆し、神に立ち替わろうとする、バベルの塔の霊です。それは、未だこの世に存在します。だからそれを「バビロンの謎」というのです。このように、同じ「バビロン」といっても全く違う意味で、違う場所で用いられるのです。ということで、同じ名前でも全く異なる出来事というのは、皆さんもご存知だと思います。一つは、元々の場所の名前、もう一つは、名前に象徴される霊的なものです。聖書の中には、二つだけ——「ゴグとマゴグ」が使われている場所があります。エゼキエル書 38~39 章は、特定の国々が特定の国に攻め込む特定の戦争について語られています。それは、マゴグの大首長ゴグによって率えられるものです。マゴグは現在のロシアです。ロシアの大首長、北から来る大首長は、聖書のその箇所に書かれているその他の国々と一緒に、攻め込んできます。そして、彼はイスラエルに攻め込みます。その時のイスラエルというのは、安全、安心で繁栄している時代を迎えています。これが、エゼキエル 38 章の概要です。最初に登場する「ゴグとマゴグ」です。では、エゼキエル 38 章 1~6 節を読みましょう。

- 1 さらに、私につきのような主のことばがあった。
- 2 「人の子よ。メシェクとトバルの大首長であるマゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言して
- 3 言え。神である主はこう仰せられる。メシェクとトバルの大首長であるゴグよ。今、わたしは、あなたに立ち向かう。
- 4 わたしはあなたを引き回し、あなたのおごに鉤をかけ、あなたと、あなたの全軍勢を出陣させる。それはみな武装した馬や騎兵、大盾と盾を持ち、みな剣を取る大集団だ。
- 5 ペルシャとクシュとプテも彼らとともにおり、みな盾とかぶとを着けている。
- 6 ゴメルと、そのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマと、そのすべての軍隊、それに多くの国々の民があなたとともにいる。」

(エゼキエル 38:1~6)

このように、大首長はゴグ、彼はマゴグからやって来ます。彼はロシュのメシェクとトバルの頭です。見ての通り、神が、彼の顎に鉤をかけて、彼を中東に連れて来ます。鉤とは何でしょう？どうやって魚を釣りますか？ここに鉤があるとします。鉤には何を付けますか？

——餌。

餌ですね。エサ(笑)餌は魚が食べたいものです。鉤に餌を付けますね。魚は、鉤に向かって行くのではなく、餌に向かって行きます。餌は、魚にとって魅力的で、惹きつけます。しかし、鉤が魚を思うままに連れて来ます。面白いことに、テレビをつけると、ロシアがすでにイスラエルとの国境のところまで来ているのです。ロシアにいるのではなく、イスラエルの隣にいるんです。何が彼らをそこまで連れて来たのでしょうか？それは一つしか考えられません。天然ガスと石油です。これは、ロシアの最大の産業です。シリアで、いろいろな事が揺れ動いている時に、彼はそれを利用しようとしています。そこに入り込み、地中海の石油とガスの取れる地域に入ろうとしています。それだけではありません。彼らはイスラエルがさらに膨大な量のガスと石油を発見したことを聞きつけました。11~12節をご覧ください。

- 11 こう言おう。『私は城壁のない町々の国に攻め上り、安心して住んでいる平和な国に侵入しよう。彼らはみな、城壁もかんぬきも門もない所に住んでいる。』
- 12 あなたは物を分捕り、獲物をかすめ奪い、今は人の住むようになった廃墟や、国々から集められ、その国の中心に住み、家畜と財産を持っている民に向かって、あなたの腕力をふるおうとする。

(エゼキエル 38:11~12)

彼が何かを盗み取りに来ようとしているのかが、ここで分かります。ユダヤ人、ムスリム、パレスチナ人、イスラエルの対立ではなく、何かを盗るために彼は来ます。彼はどこから来ますか？15節を見てください。

- 15 あなたは、北の果てのあなたの国から、多くの国々の民を率いて来る。彼らはみな馬に乗る者で、大集団、大軍勢だ。

(エゼキエル 38:15)

どこから来ますか？

——北から。

キタ！(笑)ということで、3つのことが分かりました。この、イスラエルに攻めて来る同盟軍のリーダーは、ロシアの長です。そして、ロシアに3~4の国が付きまします。5節によると、

- 5 ペルシャとクシュとプテも彼らとともにおり、みな盾とかぶとを着けている。

(エゼキエル 38:5)

ペルシャはイラン、クシュはスーダン、プテはリビアです。続けて6節を読んでみましょう。

6 ゴメルと、そのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマと、そのすべての軍隊、それに多くの国々の民があなたとともにいる。

(エゼキエル 38:6)

ゴメルとトガルマは、現在のトルコです。今日、ロシアとイランとトルコは既にシリアの中にいます。そして、スーダンとリビアは、アフリカの中でこの2国だけが、イスラエルにつこうとしないのです。聖書には、こうあります。

10~11 節

10 神である主はこう仰せられる。その日には、あなたの心にさまざまな思いが浮かぶ。あなたは悪巧みを設け、
11 こう言おう。『私は城壁のない町々の国に攻め上り、安心して住んでいる平和な国に侵入しよう。彼らはみな、城壁もかんぬきも門もない所に住んでいる。』

(エゼキエル 38:10~11)

ここで見ての通り、イスラエルは強く、安全で、繁栄していなければなりません。現在、近代国家としてのイスラエルは史上最も強く、安全で、繁栄した時代を迎えています。失業率はとても低く、GDP（一人あたりの国内総生産）は400万円近くあります。株式市場は上昇中です。世界中からリーダーたちが集まって来て、イスラエルとのビジネスをしています。最近ではインドの首相が来て、何百億という商談に調印して行きました。この預言は、疑う余地がありません。過去のイスラエル史上では、有り得なかったことです。それだけではありません。聖書には13節に、イスラエルへの攻撃を批判する地域が3つあります。

13 シェバやデダンやタルシシュの商人たち、およびそのすべての若い獅子たちは、あなたに聞こう。『あなたは物を分捕るために来たのか。獲物をかすめ奪うために集団を集め、銀や金を運び去り、家畜や財産を取り、大いに略奪をしようとするのか』と。

(エゼキエル 38:13)

シェバやデダンとはサウジアラビアのことです。タルシシュの商人たちはヨーロッパ連合やイギリスのこと、そのすべての若い獅子とは、多くの学者たちがアメリカである可能性が高いと言及しています。面白いことに、ドナルド・トランプがまず、サウジアラビアを訪問しました（書記注:2017年5月）。そして、中東地域に亀裂をもたらす効果を発揮しました。今やサウジアラビアは他には付かず、イスラエル側についています。ヨーロッパはいつも中立の立場を取っています。なぜなら、ヨーロッパは平和をもたらそうとしているからです。

さあ、人差し指を出してください。こめかみに当てて、リセットボタンを押してください(笑)

では、黙示録20章をご覧ください。皆さんご存知の通り、イエスが戻って来られると…イエスは19章の後に戻って来られます。12章には、サタンが天での戦いに敗れて、——12章7~9節を読んでみましょう。

7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが、
8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。
9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。

(黙示録 12:7~9)

聖書には、私たちの戦いは血肉によるものではないと書いてあります（エペソ 6:12 参照）。空中の、この世の権力との戦いだと書いてあります。私たち信者に挑んでくる、この世の支配者は、天で戦っているのです。なぜなら、サ

タンとその使いたちはまだ天にいるからです。分かりますか？私たち信者は、天において常に闇の世界の権威に支配されそうになっているのです。理解出来ましたか？12章でサタンが天から地上に落とされます。12章から19章までは、サタンが地上で蠢く、大患難について描かれています。20章では、イエスが戻って来られます。

- 1 また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手を持って、天から下って来るのを見た。
- 2 彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕え、これを千年の間縛って、
- 3 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。
- 4 また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行う権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。
- 5 そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。これが第一の復活である。
- 6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力ももっていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。
- 7 しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、
- 8 地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海辺の砂のようである。
- 9 彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。
- 10 そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。

(黙示録 20:1~10)

さて、二つ目のゴグとマゴグが出て来ました。先ほどとは異なります。しかし、流れている霊は同じです。一つ目は元々の形をしていて、神の敵が、神の民に敵対してやって来ました。神が与えた地にやって来たのです。彼らが何もしていないのに、マゴグが攻めて来ます。つまり、(エゼキエル 38 章と) 全く同じ霊が黙示録 20:10 で、イスラエルと教会を攻めるのです。相似しています。皆さんが理解しておかなければならないのは、敵は常に、イスラエルと教会を憎んでいるのです。イスラエルと教会は、唯一、神が「わたしの証人だ」と呼んだ集団です。イザヤ書 43 章では、神が「あなたがたはわたしの証人」(10 節) だと言っておられます。使徒の働き 1 章で、主は人々を送り出し——基本的には教会を世に送り出して、「あなたがたはわたしの証人となります」と仰っています。ですから、イスラエルと教会は、これからも常に敵から攻撃されます。今も、そして、将来においてもです。反キリストが攻撃するのは、この二つの集団にだけです。反キリストのことを、神とかメシアとして受け入れない、イスラエルの民、患難時代の聖徒たちです。今も、そして将来も、私たちはいつも同じ舟に乗っています。

忘れてはならないのが、エゼキエル戦争と黙示録 20 章の戦争は、全く異なる二つの戦争である、ということです。大きな違いが 4 つあります。先ほど読んだ通り、エゼキエル 38 章の戦争は、おもに北から攻めて来ます。そして、特定のいくつかの軍隊がそこに関わって来ます。黙示録 20 章の戦いでは、地の四方から、あらゆる方向から攻めて来るとあります。聖書にはこうあります。

- 8 地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海辺の砂のようである。

(黙示録 20:8)

スゴイですね。いろいろな人たちが私に、

「どうして、ほとんどの国がイスラエルに我慢ならないのでしょうか？」

「どうして、クリスチャンだけがイスラエルのことを好きなんですか？」

それはシンプルです。私は驚きません。怒りも感じません。皆さん、理解しておかなければならないのは、サタンの一番の仕事は、諸国を欺くことです。イスラエルを、ではなく、諸国を、です。そして、諸国を欺く事のほとんどの部分が、イスラエルに関する事なのです。千年王国の前に、サタンが底知れぬ所に投げ込まれる前…その箇所読んでみましょう。

3 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。

(黙示録 20:3)

分かりますか？サタンがずっとやって来た事は、諸国の民を惑わすことです。そして、千年王国をイエスが統治され、私たちが統治しますが、その時には、サタンは、そこにはいません（諸国の民を惑わすことがない）。そして、少しの期間、サタンは解き放されます。彼は解き放されて、ただちに、諸国の民を惑わし始めます。それは、彼がこれが最強であると知っているからです。

では、エゼキエルと黙示録との標的の違いとは一体何でしょうか？まず、エゼキエル 38、39 章には、サタンという記述が文脈にありません。ロシアとか、ペルシャとか。しかし、黙示録 20 章には、千年王国の終わりに、サタンがメインキャラクターとしてはっきりと書かれています。エゼキエル戦争は、大きな可能性で核戦争となるでしょう。死者を7ヶ月間かけて葬る、と書かれています。39 章 11~12 節を読んでみましょう。

11 その日、わたしは、イスラエルのうちに、ゴグのために墓場を設ける。それは海の東の旅人の谷である。そこは人が通れなくなる。そこにゴグと、そのすべての群衆が埋められ、そこはハモン・ゴグの谷と呼ばれる。

12 イスラエルの家は、その国をきよめるために、七か月かかって彼らを埋める。

(エゼキエル 39:11~12)

このように、土地を清める必要があります。黙示録 20 章の戦いは千年王国の終わりの戦いです。大きな白い御座の裁きがもうすぐに始まるころなので、死者を葬る必要はないのです。エゼキエルでは、イスラエルはとても繁栄し、安全でとても良い国となっています。イスラエルは肉体的に、物理的に土地に戻って来ました。しかし、まだ霊的には回復されていません。だから神は、この戦争を通してイスラエルを主の元に戻されるのです。エゼキエル 39 章 21~29 節まで読んでみましょう。

21 わたしが諸国の民の間にわたしの栄光を現すとき、諸国の民はみな、わたしが行うわたしのさばきと、わたしが彼らに置くわたしの手とを見る。

22 その日の後、イスラエルの家は、わたしが彼らの神、主であることを知ろう。

23 諸国の民は、イスラエルの家が、わたしに不信の罪を犯したために咎を得て捕らえ移されたこと、それから、わたしが彼らにわたしの顔を隠し、彼らを敵の手に渡したので、彼らがみな剣に倒れたことを知ろう。

24 わたしは、彼らの汚れとそむきの罪に応じて彼らを罰し、わたしの顔を彼らに隠した。

- 25 それゆえ、神である主はこう仰せられる。今わたしはヤコブの繁栄を元どおりにし、イスラエルの全家をあわれむ。これは、わたしの聖なる名のための熱心による。
- 26 彼らは、自分たちの地に安心して住み、彼らを脅かす者がいなくなるとき、わたしに逆らった自分たちの恥とすべての不信の罪との責めを負おう。
- 27 わたしが彼らを国々の民の間から帰らせ、彼らの敵の地から集め、多くの国々が見ている前で、彼らのうちにわたしの聖なることを示すとき、
- 28 彼らは、わたしが彼らの神、主であることを知ろう。わたしは彼らを国々に引いて行ったが、また彼らを彼らの地に集め、そこにひとりも残しておかないようにするからだ。
- 29 わたしは二度とわたしの顔を彼らから隠さず、わたしの霊をイスラエルの家の上に注ぐ。——神である主の御告げ——」
(エゼキエル 39:21~29)

このように、この戦争は、イスラエルの民を霊的に主の元に取り戻すために用いられます。黙示録 20 章では、イスラエルはもうすでに救われているのです。イスラエルはすでに救われていて、私たち教会はイエスとともに戻って来ていて、私たちは神の民となります。だからここでは、イスラエルという語はなく、敵が聖徒たちを取り囲むと書いてあります。ただイスラエルだけでなく、私たち全員です。彼らはその時には聖徒となっています。

イスラエルが救われて、イエスに完全に従うようになるのはいつだと思いますか？ゼカリヤ書 12 章、ローマ書 11 章に書かれています。読んでみましょう。

- 9 その日、わたしは、エルサレムに攻めて来るすべての国々を捜して滅ぼそう。
- 10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。
- 11 その日、エルサレムでの嘆きは、メギドの平地のハダデ・リモンのための嘆きのように大きいであろう。
(ゼカリヤ 12:9~11)

彼らは、自分たちが突き刺した方を見て、嘆き悲しみます。

- 25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、
- 26 こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりに。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。
- 27 これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」
(ローマ 11:25~27)

さあ、お昼ご飯を食べてもう眠たくなっている方がいると思いますが(笑)、もっと面白くなります(笑)。ランチの後に聖書を読みたくないですね(笑)。ここで、少し目が覚めたところで(笑)、理解を深めていきましょう。今読んだローマ書 11 章の中で、イスラエルが救われるのがいつか書かれています、それは「異邦人の完成のなる時まで」と書いてあります。手を出してください。片手だけでいいです。(開いた手をくるっと回しながらギュッと握るジェスチャー) ハッ！良いですか？(笑) 神は、異邦人に救いのチャンスの窓を開けておられます。それが、こんな風に、ハッ！(笑)

終わりに近づいています。あ～、黙っちゃいましたね…(笑)じゃ、次を見てください。

ダニエル書の「ダニエルの70週」を読んだことがある方、いらっしゃいますか？「ダニエルの70週」のメッセージをユーチューブにできるだけ早くアップロードしていこうと思っています。必見です！誰がしゃべってるか分からないですけど、スゴイ講師です(笑)。(※ビホールド・イスラエルのユーチューブチャンネルに日本語字幕付きがありません。DIVINE USのHPにPDFファイルもあります。)そんな中で、ダニエルが一つの事について尋ねたのに、神はダニエルの理解をはるかに超えたことを教えてくださいました。ダニエルは本当は一つだけ知りたかったのですが、彼は良い人で、神を愛し、祈りの人でしたから、神は

「わたしは、大天使ガブリエルをあなたに送ろう」

と言われました。ガブリエルは言いました。

「ダニエル、あなたが祈り始めたその瞬間から、命令が下されました。」

ここに祈られる方はどれくらいいらっしゃいますか？(笑)時々祈る人は？皆さんに言いたいことがあります。もし皆さんが祈らないのなら、あなたは神については知っているけど、あなたは神を知らない。あなたは自分の奥さんに話しかけなかったら、あなたは奥さんについて知っていても、奥さんを知らない。あなたが主に話しかけなかったら、あなたは主について知っていても、主の事を知らない。神があなたに語らなかったら、どのようにして神様を知るのですか？

「神について、読みましたから！」

という人は、神の事を知っているのでしょう。だから、皆さんが祈り始めた時には、神は既にあなたがたにしようと思っておられることを始められています。御使いには、ダニエルが祈り始めた瞬間に、命令が下されたのです。私はIDF(イスラエル防衛軍)の中佐です。だから、軍隊の中でどのように働くのかを理解しています。司令官から電話が来て、

「行け！」

あなたが電話を取ったときに、

「もしもし～？こんにちは～！お元気～？ お願いがあるんですが～？いいですかあ？行くようにお願いしても大丈夫ですかあ？」

そんな命令はありません！(笑)電話を取って、

「行け！」

と言ったら、それが命令です。ガブリエルは大天使です。(羽根をバタバタさせるジェスチャー) (笑)神に呼ばれて、何か巻物のような物を与えられました。そして、

「行け！」

と言われたんですね。(羽根をバタバタさせるジェスチャー) (笑)

ガブリエルは必死で来て、汗をぬぐって、水を飲んで(笑)

そして、ダニエルに言いました。

「わたしは今、あなたに悟りを与えるために出て来た。あなたの民とあなたの都について、70週が定められている。」
(ダニエル書9:22～24 参照)

今日はその深い部分までは話しませんが、手短かに言うと、69週は既に成就されました。そして、最後の一週がもう成就されようとしています。両方が、イスラエルの民と都としてのエルサレムに関するものです。だから神は、イスラエルとイスラエルの民に対して働かれました。それはイエスが都に入られるまでです。まさに、173,838日、ネヘミヤに(アルタシャスタ)王から、エルサレムの町を再建せよという命令が下されてからぴったりその日数に当てはまります。神のタイムラインを理解しておくのはとても大切です。神のタイムラインは、まず、イスラエルに対処されました。そして、メシアが来られて、主が絶たれました。メシアが死なれた後、大いなる帝国がイスラエルを滅ぼす

ためにやって来ます。このように、イスラエルから異邦人に注目がシフトされました。そして、最後の一週が、またイスラエルに注目が戻されます。そして、その時が「異邦人の時」の終わりとして知られています。2回この言葉が出て来ます。ルカ 21 章 24 節をご覧ください。

24 人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる地に連れて行かれ、異邦人の時の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。

(ルカ 21:24)

良いですか？イエスの言葉です。次、先ほども読みましたが、ローマ書 11:25

25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思わないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、

(ローマ 11:25)

このように、異邦人の時というのは、特定されていて、世の終わりに近づいているということです。そして、ここに衝撃パンチが来ます(笑)準備は良いですか？

もし神が、最初のゴグとマゴグでの霊的なイスラエルの復活をされたとしたら、つまりそれは、私たちはここにはいないということです。なぜなら、私たちは異邦人の時が終わって、私たちはここを去らないと時が来ないのです。しかしながら、二つ目のゴグとマゴグはどうでしょうか？じゃあ、最初のゴグとマゴグの時に、私たちがここにはいないとします。では、二つ目はどうでしょうか？一つのことをお話しましょう。

イエス・キリストを信じる者として、最初のゴグとマゴグに関しては、それほど気にすべき事ではありません。ただ、二つ目のゴグとマゴグの時には、皆さんはそこに在るべきです。どうしてでしょう？それは、皆さんがそこに在るためには、唯一、皆さんが携挙される必要があるからです。どうしてでしょう？なぜ？(笑)二つ目のゴグとマゴグは、いつですか？それは、千年王国の最後です。携挙されない限り、そんなに長く生きることはできないからです。そして、素晴らしいのは、二回目のゴグとマゴグの一部を担う人たちです。皆さん、分かりましたか？もう一度巻き戻して(笑)最初のゴグとマゴグは、もうそこまで迫っています。エゼキエル 38 章に書かれている 5 つの国々は、もうそこに在るのです。全ての目的は、もうそこに在ります。そして、彼らを非難する国々もすでに整っています。ヨーロッパは、今にも反キリストを生み出そうとしています。そして、反キリストはすぐ後に平和をもたらそうとしています。だから私たちはすでに分かっている通り、私たちはすぐに、いつでもここを立ち去る時が来ているということです。だから聖書は

18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

(第一テサロニケ 4:18)

と言っているのです。しかしながら、まず私たちが主とともに在る 7 年があり、主とともに統治する千年王国、そして、千年王国の終わりに短い間、サタンが解き放され、聖徒たちに対して戦いが挑まれますが、神はサタンを滅ぼし、それがサタンの歴史上の終焉となるのです。

さて、皆さんはどちらのゴグとマゴグを見たいですか？もし、一つ目を見たいなら、あなたはレフトビハインド(携

拳に置いて行かれる)、そしてそれが二つ目を見ないということを物語っています。分かりますか？だから、どうして皆さんはゴグとマゴグについて語るのですか？皆さんはいつも覚えていなければなりません。皆さんが経験したいと思うゴグとマゴグは、二つ目の方です。一つ目に、ここにいるのはとんでもないことです。それは、取り残されたことを意味します。皆さん、どうか理解してください。神はその子どもたちに、主のご計画を知ってほしいと願われています。そうすれば、私たちは備えることが出来るからです。私たちは、最初のゴグとマゴグの前に、ここを去ることが出来ます。皆さんは、二つ目に備えが来ていますか？

今日の午後、皆さんにお伺いします。私たちの時間はそんなに長くありません。私たちには、その日、その時がいつであるかは分かりません。私は決して、日付を与えません。誰かが、この日だと日にちを指定するたびに、——11月23日とか、9月23日とか——自動的に、それは起こりません。誰も分からないんです！イエスでさえ知らなかったのですから！だから、誰かが知っているとしたら、それは神からのものではないのです。誰もその日その時は知らないということが知られています。でも、私たちはその時期と季節を知っています。イエスは、終わりの時にどういったことが起こるのか、タイムラインを与えられました。私たちは、肉体的、物理的なイスラエルの復興を目にしている世代です。そして、私たちはこの場を去ります。そうすれば、神が再びイスラエルを霊的に対処することが出来るのです。ダニエルの70週、そこに火をもたらしして試します。三分の二が死んでしまい、三分の一だけが残ります。ゼカリヤ書の13章を読んでみると、そのように書かれています。だから、皆さんはイスラエルを助け、支援する羊にならなければなりません。なぜなら、イスラエルに関して私たちが行なうことは全て、これから起こることに関わっているからです。肉体的、物理的な復活を、私たちは目撃しました。イエスが「いちじくの木のとえ」(マタイ24:32~33)で説明されたことです。覚えていらっしゃるでしょうか？そして、その後に来るのが霊的な復活です。今日の午後、皆さんにお聞きします。皆さんは準備ができていますか？皆さんは主とともに歩んでおられますか？皆さんの人生は、神の栄光を現していますか？皆さんは、神の御国を第一に求めていますか？皆さんは、御父の御業に励んでおられますか？

終わりに、どうか皆さん目を閉じてください。もし今日の午後、主がここにいらっしゃる誰かに語りかけたなら、聖霊があなたの心に「あなたが神の御心になかった生き方をしていない」と迫られているなら、目を閉じて、頭を下げたままで、もしそれがあなたなら、静かに手を挙げてください。私たちは、そのことに関して何も言いません。(会場から拳手がいくつかあった)手を下ろしてください。

お父様、どうもありがとうございます。

今日、あなたは、あなたの人々を回復させていただきました。あなたは人々を備えてくださいました。あなたは、これからしようとされていることに対して、あなたの人々を備えてくださいました。お父様、ありがとうございます。あなたは、ここにいる一人として滅びることを望んでおられません。そして、ここにおられるお一人お一人の中で、あなたは良い事を始められました。あなたは完全な義であられます。あなたの御言葉は、私たちの足の灯火です。お父様、ありがとうございます。

今日の午後、大きな決断をされた方に祝福がありますように。今日のこの時点から、決して元に戻ることがありませんように。あなたとの関係を生ぬるくする事のないように。あなたは、あなたの花嫁が準備することを望んでおられます。花婿が来る前に身を清めることを望んでおられます。

お父様、ありがとうございます。あなたの平安に感謝します。私たちの理解をはるかに超える平安です。この世が与える事の出来ない平安です。そして、世が理解する事の出来ない平安です。終わりに、アロンの祝福を送りたいと思います。どうか皆さんお立ち下さい。ヘブル語で祈りますので、どうか手を前に伸ばしてください。最初に日本語で、その後、ヘブル語で祝福したいと思います。

- 24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
- 25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
- 26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

ヴェイシエメレハー	アドナーイ	イエヴァーレフハー
וְיִשְׁמְרֶךָ	יְהוָה	יְבָרְכֶךָ
..(主が)あなたを守られますように	主が	あなたを祝福し

ヴィーフネツカー	エーレーハー	パーナーヴ	アドナーイ	ヤーエール
וַיַּחַן	אֵלֶיךָ	פְּנֵי	יְהוָה	יָאֵר
..(主が)あなたを恵まれますように	あなたに(向けて)	御顔を	主が	照らし

シャーローム	レハー	ヴェヤーセーム	エーレーハー	パーナーヴ	アドナーイ	イッサー
שְׁלוֹם	לְךָ	וַיִּשֶׂם	אֵלֶיךָ	פְּנֵי	יְהוָה	יִשָּׂא
平安を	あなたに	(主が)賜るように	あなたに(向けて)	御顔を	主が	上げて

(引用：牧師の書齋 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

(民数記 6:24~26)

シャローム！シャローム！イエスの御名で祈ります。

アーメン！

ありがとうございました。この週末が、日本にとってすごい事が始まる時でありますように！皆さんに言いたいことがあります。皆さんが直面する敵のほとんどは、この話題についてあなたが語る時、ほとんどが未信者からではありません。ほとんどが、クリスチャンからものです。それによって弱くなったりしないように、どうか元気を出してください。神は新しいことをあなたの中に始められたのです。神は、ここで産み出されたことを、国中に共鳴させることをご計画されていると思います。ここが、この働きの中心地だからです。そして、神がこの、よみがえりといのちという名のついた、小さな宮を造られたことは、偶然ではないでしょう。私たちクリスチャンとしての歩みの中にも、よみがえりは必要なのです。そして、皆さんご自身がこの言葉によって励まされなければ、人を励ますことが出来ないのです。どうか皆さん、引き続き、探して、見続けてください。聖書には、皆さん、あまり理解されないのですが、救いのために働きなさいと書いてあります。それは、救いが働きによるものだという意味ではありません。そういう意味で書かれたのではないのです。そういう意味ではなく、今も皆さんは救われています。しかし、神様が、御使いを送られないので、私は何もしたくない、というのではないのです。皆さん、学び、祈って、求めましょう。叩けば、開かれるのです。聖書には、

17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」

(黙示録 22:17)

とあります。私たちは、主に「来てください！」と言いましょ！でも、私たちに備えがなければ、主に「来てください」とは言えないのです。花嫁は、花婿が来られる準備が出来ていなければなりません。そして、花婿に「来てください」と言わなければならないのです。これが全てです。私たちはのんびりしている場合ではありません。アクティブに働かなければなりません。いいですか？

ありがとうございました。God bless you!

シャローム from Israel !

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>